オ ホ ツクの寒潮咆哮えて $\overline{\mathcal{O}}$ 海み 渦ず がんちょうほどの

の水に浮べい

る

雄健き名ぞ蝦夷が島根にたけ、なっれるでしまね 々とな言さ りし恵迪の寮 ひし三年を

旅な 年と 寝^a 古^s

の高夢を追ふなり

限が

りなき感激をしたふ

する 清いがまり 月まれる の影はさやけし

酒觴をめぐらしかさね 羆< たぎりゆく若き血潮に 熊ま の声聞くもすべなし

若さらと 永劫に若き一日 想ひ出の自由 Ĺ

集ひたる寮友は兄弟っともにいる 六十にも齢うつろひ の寮史も成り の永遠の記念と

満^まえ

の長夜のこ

闇やみ

ぎ

雄叫びと共に来れ

'n

道を を

明は曠

野や 7の際涯

陳なる 腐ぷ

なる歌を恥ぢらふ

先人の詩になぞらへ 茂みさぶる森に仰臥し

寂ざ

ó

歩行はこびて

ただ仰げ自然の姿

そは深き黙示をきざむ

と結び輝く 唯魂 魂 á

晴れんとす起てよ寮友は いざ出でむ時は到れ の象牙の塔を 'n

竜田姫佐保神三たび ^{たったいのき ほがみみ} 恵迪の 館 を訪ひし 夢とせむ楡鐘 八の生命捧げた Iの 宴遊 0 調べを

忘れ得ぬ恵迪の歌な世の烽火あぐべ」 蒼穹高く3 になったかりに 高す忘す 漢季の世救は はすく ひゆけ正義の大 、 巣[†] 立^だ 治₅ あ んは汝れ 一つ寮友と 牙城 を

星 勇 君 作 歌

白

拓義

君

作

曲